

京林大だより

No.49



絵：卒業生 熊走君

第9期生16名が入学しました

3月末に満開を迎えた桜は、そのまま散ることなく4月6日(月)の入学式当日を迎え、京都府をはじめ山梨、愛知、滋賀、大阪、島根、長崎の各府県から集まった第9期生16名を暖かく迎えてくれました。

今年の入学式は、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐために、御来賓の方々の参加を取りやめるなど、例年と少し違う雰囲気となりましたが、晴れやかに式を行うことができました。新入生はこれから2年間、京丹波町をベースに森林・林業について学ぶとともに、多くは町内に生活の拠点を置くこととなります。地域の皆様や保護者の方々には温かい目で見守ってくださいますようお願いいたします。



実習に向けて装備品準備

校門前で記念撮影

一日だけの日本海(眺望)ウォーキング

学生相互の連帯感の醸成と山に親しむことを目的に、年度の始めに実施している「日本海ウォーキング」。毎年一泊二日で行っていますが、今年は4月10日(金)の一日だけの行程です。

当日は、春には珍しい澄んだ空気の中、1・2年生が元気に大江山を縦走しました。海にまで至ることはできませんでしたが、進むにつれて、眼下に広がっていく日本海を楽しむウォークとなりました。



間もなく昼飯、元気です



今年の到着地は航空管制塔(宮津市)

新型コロナウイルス 感染症に伴う 京林大の休校状況



3月の卒業式、4月の入学式は例年と比べ、やや縮小しながらも無事に行うことができましたが、新型コロナウイルスの影響は京林大にも波及しています。

3月は卒業式後の3月11日(水)～19日(木)は休校となり、そのまま春休みを迎えました。4月に入り、入学式後の一週間は通常通り講義を行っていましたが、緊急事態宣言発令などに伴い、4月13日(月)～5月31日(日)は再び休校となっています。

可能な講義はオンライン授業も検討中ですが、実習主体の講義が多い中、感染拡大が収束し、できる限り早期に在校生31名が元気に登校し、通常通り再開できることを望むばかりです。



校長室より

サクラ咲くには寒さが必要

校長 只木良也

春の花といえばサクラ。サクラ咲く頃は、陽気もぽかぽかは例年のこと。それが今年はとくに暖冬で、気象庁の発表によれば、今冬の平均気温は平年値を1.66℃上回り、これは明治30年統計開始以来最高とか。今、世界的に話題の地球温暖化の一例です。

そのおかげで、京都林大、校門脇のサクラも、3月末には花盛り、4月6日の入学式まで持つかと、職員一同心配したのですが、入学式当日も見事に花盛りで、それを背景に全員集合の記念撮影。それどころかちょっと寒さが戻ったせい、さらに10日ほども花は保ったのです。

サクラなど、春に咲く樹木の花の芽は、春になって作られるのではなく、その基は、前の年の夏の高い気温の中で作られるのが普通です。夏に出た花芽の基は、春まで「休眠」するのですが、

今月の授業参観

『京の木と文化』

2月26日(水)「京の木と文化」最終回は文化財修復について学びました。午前には京都市南区の(株)奥谷組にて千田真由美社長の指導で社寺建築と文化財修復技術を、午後には上京区の本隆寺で京都府教育庁の指導で実際の木材利用状況を学びました。

修復現場で皆が驚いたのは、建物をすっぽり覆う足場と大屋根でした。ほぼ全てを足場丸太(間伐材)で組み上げる伝統技術を導入していました。本堂の修復は屋根を順番に解体し、腐食した梁を交換して、そこから復元するものです。本堂1階は見栄えの良い大径材を使い、小屋裏など見えないところは針葉樹の細い丸太を使って資材を節約する、今も昔も変わらぬ「適材適所」の実際を確かめることができました。



建物をすっぽり
覆う足場丸太
の一部

冬の間の、ある一定の低温条件(例えばx℃以下の日がy日間といった)が満足されると休眠から醒め、春に向かって開花準備、後は暖かさの積重ねに伴って花開きます。花開くには、その前に冬の寒さが必要なのでした。秋の温かい日を、春と間違えて花が咲かないようにという安全対策なのです。その休眠から醒める寒さの条件は、樹種・品種によって当然違い、それが春の多様な景観を生むわけです。

しかしその一方で、冬が暖かかったため、例年より開花が遅れたサクラの例もあります。京都府立植物園の「早咲き」サクラで知られたカワヅザクラやカンザクラの開花は、平年2月中旬のところ、今年は3月中旬。1カ月ほど遅かったのです。花は気温の上昇に応じて開くものの、暖冬の場合には、その休眠解除の寒さ条件を満足させるのに長期間を要したからだと思われるのです。

とすれば、昨今話題の「地球温暖化」。温暖化になれば、花見が早くから出来るなんて、のんきなことは言っていられません。温暖化が進行すれば、休眠解除のための寒さ条件が満足できず、花の咲かないことも…。ちょっと心配し過ぎですかね。